

2023年度

# 事業計画書

公益財団法人京都技術科学センター

## I 公益目的事業 1（研究助成事業）

技術立国日本を支える科学技術の振興を図るため、若手研究者が行う研究開発に必要な経費を助成するとともに、次年度の研究開発助成対象者を募集し、選考する。

### 1 2023年度研究開発助成金の交付

2022年度第2回定時理事会で決定した研究開発助成対象者に対し、研究開発に必要な経費を助成する。

- (1) 名 称 2023年度研究開発助成金
- (2) 助成件数 16件
- (3) 助成総額 1,600万円

### 2 2024年度研究開発助成対象者の募集と選考

2024年度研究開発助成対象者を募集し、審査・選考する。

- (1) 募 集 対 象 近畿地方及びその周辺地域（富山県、石川県、福井県、三重県、中国地方及び四国地方）の大学、工業高等専門学校又は公的研究機関に所属する40歳未満の研究者
- (2) 研 究 分 野 ものづくりに資する基礎的・応用的研究であって、材料、機械、電気電子の各技術分野に属するもの
- (3) 研 究 期 間 原則として2024年4月から2025年3月までの1年間
- (4) 助成上限額 1件当たり100万円
- (5) 助成総額 1,600万円程度

## II 公益目的事業 2（人材育成事業）

科学技術の振興と産業の発展を担う人材の育成事業を行う。

### 1 技術セミナー

京都府中小企業技術センターとの共催で、ものづくり企業の技術者等を対象に、先端技術シーズや研究開発の最前線の状況等を紹介するセミナーを、専門家を招聘して開催する。

なお、開催方法は、会場とオンラインの併用とする。

- (1) 名 称 ものづくり先端技術セミナー
- (2) 共 催 公益財団法人京都技術科学センター  
京都府中小企業技術センター
- (3) 開催回数 年4回
- (4) 対 象 者 関連企業等の技術者・研究者
- (5) 募集人員 各回30人
- (6) 受 講 料 無料

## 2 技術研究会

京都府中小企業技術センターとの共催で、ものづくり企業の技術者等を対象に、分析評価技術に関する研究会を、専門家を招聘して開催する。

また、関西品質工学研究会との共催で、品質工学に関するシンポジウムを開催する。

なお、開催方法は、会場とオンラインの併用とする。

### (1) ものづくり分析評価技術研究会

ア 目的 高度分析装置を対象に、最新動向から高度な活用技術までを学ぶことを通じて、ものづくり企業の製品開発力の向上を図る。

なお、テーマは毎年度変更することとし、2023年度は、近赤外分光分析を対象とする。

イ 共 催 公益財団法人京都技術科学センター  
京都府中小企業技術センター

ウ 開催回数 例会 年3回程度  
オープンセミナー 年1回

エ 対象者 関連企業の技術者等

オ 募集人員 20人

カ 会 費 年額5,000円/人

### (2) 品質工学研究会

ア 名 称 品質工学シンポジウム2023

イ 主 催 関西品質工学研究会

ウ 共 催 公益財団法人京都技術科学センター  
中部、滋賀県、広島各品質工学研究会

エ 開催時期 2023年10月6日(金)(予定)

オ テーマ 「社会損失低減と品質工学」(仮題)

カ 内 容 基調講演1件、事例発表4件程度

キ 参加人員 200人

## 3 テクノアイデアコンテスト

将来の産業・科学技術の発展を担うベンチャー精神に富んだ起業家や柔軟でユニークな発想を持つ研究者を育成するため、高校生、高等専門学校生、大学生及び大学院生を対象に、技術に関するアイデアを広く募集し、書類審査通過者を対象にコンテストを開催する。

(1) 名 称 テクノ愛2023

(2) 主 催 テクノ愛実行委員会

(3) 共 催 公益財団法人京都技術科学センター  
京都大学産官学連携本部

- (4) 後援 (予定) 文部科学省  
近畿経済産業局  
京都府教育委員会  
京都市教育委員会  
NHK京都放送局  
国立研究開発法人科学技術振興機構  
一般社団法人日本ベンチャー学会  
関西ベンチャー学会
- (5) 協賛 (予定) 大阪大学共創機構  
神戸大学産官学連携本部  
京都工芸繊維大学産学公連携推進センター  
大阪電気通信大学  
関西サイエンス・フォーラム
- (6) 応募資格 高校の部 全国の高校生、高等専門学校3年生まで  
大学の部 全国の大学生、大学院生、高等専門学校4・5年生・専攻科生
- (7) 応募期間 2023年8月1日～9月11日 (予定)
- (8) 審査方法 選考委員による書類審査で、コンテストに進む高校の部、大学の部各9テーマを選考
- (9) コンテスト 開催日 2023年11月23日 (木・祝日) (予定)  
開催場所 京都大学国際科学イノベーション棟 (予定)
- (10) 表彰等 高校の部、大学の部ごとにグランプリ、準グランプリ、優秀賞及び奨励賞を、また総合の部としてテクノ愛賞を選考し、賞状、副賞を授与する。  
また、コンテストに進まなかったテーマのうち、書類審査で健闘したと認められたものに対し、健闘賞として賞状、副賞を授与する。
- (11) 参加料 無料

#### 4 科学館・技術館訪問研修

中学生及び高校生を対象に、夏休み期間を利用して、高い技術力を有する企業等を訪問し、研究開発の歩みや経験、将来展望等の講話を聴くとともに、生産工程等を見学する研修会を開催する。

- (1) 名称 科学館・技術館訪問研修
- (2) 後援 (予定) 近畿経済産業局  
京都府教育委員会  
京都市教育委員会
- (3) 開催時期 2023年8月上旬
- (4) 訪問先 株式会社東レリサーチセンター・東レ株式会社滋賀事業場 (予定)
- (5) 参加資格 近畿地方の中学生・高校生及び教員
- (6) 募集人数 40人
- (7) 参加料 無料

## 5 おもしろサイエンス

小学生を対象に、科学実験や工作を体験する実験教室を開催する。開催回数は、これまで夏休みと冬休みの年2回であったが、2023年度は年3回に増やすこととする。

- (1) 名 称 ①おもしろサイエンス2023・夏の実験教室  
②おもしろサイエンス2023・冬の実験教室  
③おもしろサイエンス2024・春の実験教室
- (2) 協 力 サイエンスEネット
- (3) 後援(予定) 京都府教育委員会  
京都市教育委員会
- (4) 開催時期 ①2023年 7月中旬(予定)  
②2023年12月下旬(予定)  
③2024年 3月中旬(予定)
- (5) 会 場 京都技術科学センター本館1階B会議室
- (6) テ ー マ 「リニアモーターカーを走らせよう！」
- (7) 参加資格 近畿地方の小学生
- (8) 募集人員 午前の部 20人以内  
午後の部 20人以内
- (9) 参加料 無料

## 6 科学技術情報等提供

ホームページを活用して、当センターが実施する事業やイベントの周知、研究開発助成成果報告書の掲載、各種人材育成事業の開催状況等の情報を提供し、利用者やイベント参加者の拡大を図るとともに、科学技術情報を広く発信する。

## Ⅲ 収益事業

本法人が所有する建物・土地を事務室・研究(開発)室・倉庫、駐車場等として賃貸するとともに、会議室を貸し出し、その収益を公益目的事業の財源等として活用する。

この間、貸室やトイレ等を積極的に改修して入居者を増やすという循環を創出してきたが、2023年度においても、改修済の貸室への入居を促進するとともに、未利用施設の有効活用方策について調査・検討を行う。

また、京都市の主導で2022年度から、当センターを含む京都市内のインキュベーション施設の情報交換等の取組が開始されたが、収益事業においても、科学技術の振興に資するものとなるよう、引き続き研究開発室の整備・充実に取り組む。

## IV その他

### 1 長期ビジョンの取組

当センターは、2018年5月に、今後20年間の取組方向を定めた長期ビジョンを決定し、さらに2019年3月に、最初の5年間の取組内容を定めた実施計画（第1期計画）を策定したが、第1期計画の最終年度となる2023年度は、（1）計画に掲げた事業の遂行と（2）第2期の実施計画（第2期計画）の策定が課題となる。

#### （1）第1期計画の遂行

第1期計画に基づく各種取組を推進するとともに、2023年度の取組計画の一部を次のように変更する。

##### ア 公益目的事業

電磁波技術セミナーは、休止する。

##### イ 収益事業（資産有効活用方策）

1階にある講堂を3貸室に分割・改修する計画については、実施可能性等に係る調査・検討を行い、その上で方針を決定する。

また、1999年に現在の科学技術振興機構（JST）が地階に整備した研究室群（B23号室、B24号室、B29号室、B29-1号室等）や未利用の書庫について、入居希望企業と協議しながら、改修に向けた調査・検討を行う。

#### （2）第2期計画の策定

第2期計画は、役員及び評議員の意見を伺いながら、正副理事長と事務局で案を練り上げ、2024年3月開催の理事会に提案することとする。

##### ア 公益目的事業

長期ビジョンにおいては、「時代の変化に対応できるよう、公益目的事業を5年程度のスパンで見直す」と謳っており、公益目的事業のあり方が検討課題となる。

##### イ 収益事業

未利用資産の有効活用を図るということで、地階の西ゾーン・東ゾーンにおいて研究開発室や事務室等を整備して収益増につなげてきたが、第2期計画においては、

- ① JSTが地階に整備した研究室群及び未利用の書庫の有効活用を図る計画
- ② 1階にある講堂を事務室2室・倉庫1室に分割・改修する計画

が実施可能性を含めて検討課題になる。

##### ウ 建物・設備の改修等

引き続き老朽化した施設・設備の修繕等を行うとともに、第1期計画に盛り込まれながら実施できなかった改修等を行う。

## 2 建物・設備の改修等

長期ビジョンの実施計画（一部変更後）に基づき、次の工事を行う。

### (1) 給水管・流し台更新工事（継続事業）

#### ア 工事の概要

老朽化している鋼管製の給水管を塩ビ管に更新する工事を2022年度から実施しているが、2023年度は、地階東ゾーンの北側及び中二階の枝配管を塩ビ管に更新。

併せて、1階の東側及び西側の炊事場にある流し台（各1台）を電気温水器付きの流し台に更新

#### イ 工事費

4,500,000円

### (2) 地階東側北廊下及び西側階段天井造設等工事（継続・一部新規事業）

#### ア 工事の概要

a 給水管工事終了後、地階東側北廊下に天井を造設。その際、照明器具をLEDに更新するとともに、廊下及び付近の2部屋に換気設備を設置。併せて既設配管を撤去

b 西側階段に天井を造設。その際、照明器具を照度の高いLEDに更新

c 東側階段の照明器具を照度の高いLEDに更新

#### イ 工事費

1,700,000円

### (3) 貸室改修工事

#### ア 工事の概要

2023年度に退居が見込まれる1階13号室、地階B13号室等について、内装（床・壁・窓・ドア等の補修）、電気設備（配線、コンセント、電力量計等）、エアコン、照明器具等を更新

#### イ 工事費

2,700,000円

### (4) エアコン更新工事

#### ア 工事の概要

老朽化したエアコンを対象に4台程度更新

#### イ 工事費

2,000,000円

### (5) 照明器具等更新工事

#### ア 工事の概要

老朽化した照明器具、所定の年数を経過した電力量計等を計画的に更新

イ 工事費

2,100,000円

(6) 本館（マンション部）屋上防水工事

ア 工事の概要

本館建物の屋上の防水工事を、共同管理者であるマンハイム鴨川管理組合とともに実施

イ 工事費（当センター負担分）

3,000,000円